

聖心女子大学グローバル共生研究所 Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHISF)

グローバル共生研究所の活動

私たちは、社会に開かれた教育研究活動を行います。
公開講座、外国語講座、外国人のための日本語講座、グローバル共生ワークショップ、展示、研究者招聘、研究・活動助成、地域社会貢献、NGOやNPO・地域活動団体などとの連携を行っていきます。

(聖心女子大学グローバル共生研究所リーフレットより)



4号館

4号館 Floor map

- 5F ・国際交流学科
- 4F ・人間関係学科
- 3F ・ブリット記念ホール 教室
- 2F ・聖心女子大学グローバル共生研究所
・SHISF アクティビティスペース
・聖心コモンズ ・心理教育相談所 他
- 1F ・「BE*hive」
・「カフェ・ジャスミン」 他

聖心グローバルプラザ

オープニングイベントを
10月14日(土)に行う予定です。
詳細は、ホームページで
お知らせします。



聖心女子大学 第36回教養講座

予告

11月11日

本年度の教養講座は、人間関係学科の企画により、11月11日(土)13時から4号館ブリット記念ホールにて開催予定です。今回は、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏を講師に迎え、『写真で伝える、紛争と子どもたち』と題して、シリアなどの難民の現状を、写真と共に紹介していただく予定です。詳細はホームページでもお知らせいたします(入場無料)。



【講師】安田菜津紀氏：
1987年神奈川県生まれ。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。著書に『君とまたあの場所へ シリア難民の明日』(新潮社)、『写真で伝える仕事 - 世界の子どもたちと向き合って -』(日本写真企画)など。

プレ・オープニングイベントを開催しました

映画「さとにきたらええやん」上映会 ～ 荘保共子さんを迎えて～

7月4日



「共生」をテーマとして、本学卒業生である荘保共子さんが大阪・釜ヶ崎で運営する学童「こどもの里」を紹介したドキュメンタリー映画の上映会が行われました。

このイベントは一般に公開されたほか、社会文化学専攻や学部での授業の一環としても実施され、合計340名が参加しました。当日は荘保さんご本人にもお越しいただき、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

「黄金の林檎 (Le Pommier d'Or)」完成記念シンポジウム 「自然との共生—古今東西」

6月23日

1階ロビーを飾るモザイク画「黄金の林檎」の完成を記念し、3階ブリット記念ホールにおいてシンポジウムを開催しました。当日は、制作者である田窪恭治氏にモザイク画の制作過程を映像を交えてご説明いただいた後、高階秀爾氏(大原美術館館長)による基調講演「リンゴをめぐる文化論」が行われました。第2部のシンポジウムでは、教育学科の永田佳之教授の司会のもと、教育学科の水島尚喜教授と田窪氏が「黄金の林檎」をモチーフに、これからの時代の教育の在り方について討論を行い、250名超の参加者と共に共生のための学びについて考える場となりました。



BE*hive

‘BE*hive’は聖心女子大学に新たな学びが生まれることを願って付けられた展示・ワークショップスペースの名前です。蜂の巣（‘Hive’）から飛び出し、ミツバチ（‘Bee’）が花々を行き来して受粉し、そうした活動がやがては林檎を始めとした果実として結ばれていく — そんなアクティブな学びの姿を想い描いて命名しました。

さらにBE*hiveにはもう一つの意味が込められています。それは‘BE’、すなわち「存在」という意味です。活発な学びが展開されつつも、時には立ち止まり、深い次元で世界と、他者と、自分と出会い、人間存在を深めていく — このような学びのプロセスが生み出される時空を創っていきたい、と私たちは考えています。

‘BE*hive’では、〈良質な問い〉と出会うような学びの空間づくりを心がけていきます。ぜひ、新たな〈問い〉と出会い、学びの旅を楽しんで下さい。



オープニングテーマ 難民・避難民

「なぜこのような難民・避難民問題が起きたのか？」
「留めることができなかったのか？」
「私たちはどう関わっていくのか？」
といった探究心が芽生えるような問いかけを通して、自分なりのアクションを見つけることのできる空間です。



壁画

おう こん 『Le Pommier d'Or 黄金の林檎』

壁画『Le Pommier d'Or 黄金の林檎』に寄せて

壁画『Le Pommier d'Or 黄金の林檎』はギリシア神話から想を得たものですが、現代の文化・文明を考える上で避けては通れない生物多様性や持続可能な社会をテーマとしています。人間に備わっている知性や感性を磨く事によって地球規模の問題に立ち向かう姿勢は、取りも直さずあらゆる生命を大切に、いつくしみ育てる事です。壁画はギリシア、イタリアを始めとするヨーロッパ、そしてアジア、アメリカと世界中の自然石のモザイクによって出来上がっています。

願わくばこの『黄金の林檎』が、聖心女子大学生の知性と教養のシンボルとなり、ひいては持続可能な世界の象徴となって欲しいと思っています。

壁画制作者 アーティスト 田窪 恭治氏
（『聖心女子大学ガイドブック2018』より）

カフェ・ジャスミン

4号館／聖心グローバルプラザの1階には、学生だけではなく、どなたでも利用できるカフェがあり、グローバル、共生に深く関わる「多様性」や「持続可能性」を標榜したパブリック・スペースとなっています。

元来、ペルシャ語で「天の贈り物」を意味する“ジャスミン”をカフェの名前としました。こだわりの食材を用い、多様な文化・宗教の方々が集い、食を楽しめるように、ベジタリアン料理やポーケレス料理などのメニューを多彩に用意していきます。



Illustration © comiho.world

ブリット記念ホール

4号館3階には、視聴覚設備、可動椅子を備える、収容人数550名のホールがあります。

このホールは、1948年大学創立とともに初代学長に就任したマザー・ブリットの名前を冠し、「ブリット記念ホール」と命名されました。ブリット学長は、1967年の辞任まで19年間の在任中に、リベラルアーツ大学としての聖心女子大学の礎を築きました。学生に対しては、社会のどのような場においても灯をかかげる存在となるよう常に呼びかけ、社会に積極的、かつ実践的に関わる女性の育成に尽力しました。2017年はブリット学長の帰天50年にあたります。



初代学長エリザベスT.ブリット



Illustration © comiho.world

聖心女子大学の地域貢献と共生

聖心女子大学は、「聖心女子大学の社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、日々の教育研究活動の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与できるよう努めています。その取組のひとつとして、学生が主役となり、大学周辺地域との連携を進めています。学生は、授業やイベント運営への参加を通じ、地域との「共生」を学んでいます。

打ち水大作戦 in 広尾商店街 7月30日

「打ち水大作戦」は、私たち（M.S.S.S.）が主催しています。広尾商店街の方々にお手伝いいただき、120個の桶に張った水を、一斉に商店街の道路にまくイベントです。

昨年は、当日にまさかの雨。なんとか開催することはできましたが、盛り上がりには欠けたかと心配していたとき、終了間近、空に大きな虹が出現。忘れられない一日になりました。

14回目となる今年は、7月30日の日曜日に行います。M.S.S.S. 部員、聖心Radio Station部員、朗読同好会の有志など総勢50名が、かき水やラムネを用意、その他にも怪談壱、打ち水についての紙芝居など盛りだくさんの企画を用意して、皆様をお待ちしております。



M.S.S.S.
総ヘッド
初等教育学専攻
松浦帆花

広尾商店街 大鮎まつり 5月21日

毎年2回開催される「大鮎まつり」は、広尾商店街振興組合が、20年以上にもわたり行っているイベントです。マグロの解体ショーが行われ、サクヤ、にぎり寿司、マグロ井として販売されます。

今年5月21日に行われた「大鮎まつり」では、事前の打合せから参加させていただき、マニュアルを作成し、役割分担を明確にして、当日まごつくことのないように心掛けました。今年は、10名ほどの1年生がメインとなって、販売の際のお客様とのトラブルやご意見に対応、商店街の方々との連携して積極的に動けたことは、とてもいい経験となりました。



広尾町会防災訓練に参加して

聖心女子大学は、平成21年から、広尾町会が主催する防災訓練に参加しています。私も昨年、学寮生の代表として、AEDの使い方や応急処置のやり方、避難経路を地域の方々と一緒に学びました。一番印象的だったのは、地域の方と力を合わせて行った、ストレッチャー運搬の訓練です。平行を保ったまま真っ直ぐ移動することがとても難しく、運ぶ人間同士しっかりコミュニケーションを取りながら呼吸をあわせて運びました。

この防災訓練を通じ、これまであまり関わりのなかった地域の方々と連携し、「共に」経験することの大切さを知ることができました。なにより、事前に災害を予測した訓練を平日頃から行っておくことは、一人でも多くの命を救うことに繋がることを実感した一日でした。

哲学科4年 廣瀬 麻友





職業社会学ゼミでは、広尾商店街のフレンチフライ専門店 AND THE FRIET さんと協働し、これまでに新作ディップの商品開発、聖心祭で揚げたてポテトの販売を行ってきました。ディップの開発では AND THE FRIET さんの担当者からお客様がディップに求めること、ポテトとの相性、季節との兼ね合いなど、重要なポイントの説明をうけながら、何度も打ち合わせと試食をさせていただきました。やっとアボカド&ゴルゴンゾーラのディップを作り上げ、実際に店頭にならんだ時は、ゼミ生一同感激でした。自分がこうしたいではなく、消費者や企業がなにを求めているかを考えて企画+実現する大変さを学ぶよい機会となりました。機会を与えてくださった AND THE FRIET さん、購入してくださった皆様に感謝します。

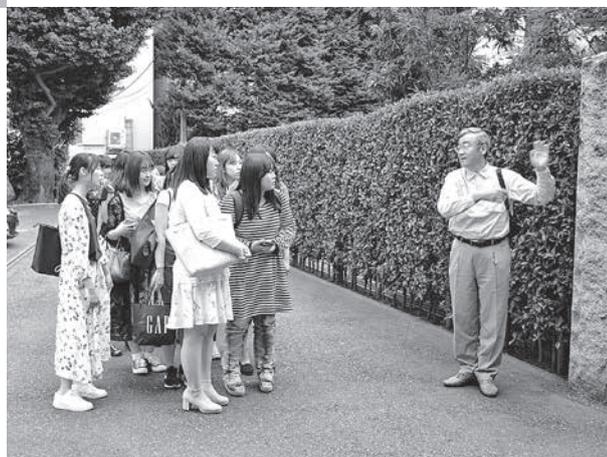
人間関係学科教授 大槻 奈巳

広尾商店街との交流

授業「基礎課程演習25」では、「共生」「持続可能性」「価値創造」等をテーマに、地域社会が置かれた現状と課題を知るとともに、課題克服のために、私・仲間・学校・地域社会の持つ魅力を引き出し、「人が育ち、まちが育つ」実践を創り出すことを目指しています。

その一環として、広尾商店街との交流を行っています。学生たちはまず多様な情報源から広尾商店街について調べ、商店街を散策し、自らの故郷の商店街やまちづくりの取組と比較をし、「憩い」「安全」「繁盛」という3つのテーマに分かれ、広尾商店街の活性化のアイデアを練りました。その後、広尾商店街振興組合の事務所を訪問し、振興組合の方々からコメントをいただき、商店街の歴史・現状・課題についてご講話いただき、単なる観光客では味わえないディープな商店街ツアーをしていただきました。これらの経験をふまえて、広尾商店街活性化プランをブラッシュアップし、7月6日に広尾商店街振興組合の方々を本学にお招きし、発表会を開催いたしました。

教育学科准教授 杉原 真晃



広尾商店街ツアーの様子（祥雲寺前にて）

学校法人 聖心女子学院 生涯学習センター

生涯学習センターは、キリストの精神に基づく学院の建学の精神・理念を踏まえつつ、卒業生、学生を含め、広く一般に生涯学習の機会を提供することを目的として開設されたものです。「都会の緑の中で“自分を磨く”」これが、生涯学習センターの目指すところです。

2017 年度後期講座のご案内

開講予定の講座は、次の通りです。

詳しくは学校法人本部のホームページでご確認ください。

途中参加も可能です。皆様の積極的なご活用をお待ちしております。

興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」を鑑賞する 浅見龍介（東京国立博物館 学芸企画部企画課長）	廣尾と祥雲寺 岩崎宗瑞（臨濟宗大徳寺派祥雲寺住職）	茶の湯にふれる第7弾 五感で味わう茶の湯菓子 植木宗麗（裏千家教授）	世界を知るシリーズ第10弾 —アジアの秘境ミャンマーを知る— 黄金と祈りの国— 田村克己（国立民族学博物館名誉教授） 栗原健一（一級建築士・写真家） 日本ミャンマー友好協会専務理事）	大人のための算数教室 塚田亮（元渋谷区立臨川小学校校長）	『歎異抄』を読む—なぜ、いま親鸞なのか— 山本伸裕（東京医療保健大学 客員准教授）	江戸城を解剖する 深井雅海（聖心女子大学元教授・ 徳川黎明会林政史研究所副所長）	芭蕉・蕪村・西鶴 深沢了子（聖心女子大学教授）	萬葉の歌と人Ⅲ—天武・持統朝の歌々— 石田千尋（聖心女子大学非常勤講師・ 中央大学非常勤講師）	『伊勢物語』を読む 山口佳紀（聖心女子大学名誉教授）	禁忌の恋はどう語られたか —藤壺の物語を読む— 大津直子（國學院大學助教）	キリスト教への招きⅢ 宮越俊光（カトリック中央協議会）	生涯学習センター開講五周年企画講座 日常生活と聖書 Sr.岩井慶子（聖心会）
--	------------------------------	--	--	---------------------------------	---	--	----------------------------	---	-------------------------------	---	--------------------------------	--

平成29年度 聖心女子大学協力会総会開催報告

聖心女子大学協力会は、在学生の保護者、卒業生及び卒業生の保護者が会員となり、長年に亘り聖心女子大学の教育環境を整備するために多大な支援を行っている。このたび、平成29年度の総会が去る6月24日(土)午前11時30分から、新たに供用を開始した4号館(聖心グロリアプラザ)内のブリット記念ホールにおいて開催された。

総会には濱口会長、木村副会長、宇野監事および羽瀨監事が列席し、大学側から協力会名誉会長である岡崎学長、北村評価・大学院担当副学長、佐々木学務担当副学長、川津学生担当副学長、安達図書館長、西村事務局長が出席した。

議案の審議に入る前に岡崎学長から「協力会員の皆様には日頃より本学の教育・研究に多大なご支援をいただき感謝申し上げます。本日は、本学の新しい建物である4号館で、本学の新しいイメージを冠したブリット記念ホールにお集まりいただいた。これらの新たな施設を聖心グロリアプラザと名付け、現代社会で様々な背景を持つ人々と共生できるグローバルな人間を育成するため、各種プログラム、セミナー、講演会等を開催していく。展示ワークショップやカフェテリアも設置し、地域社会との交流の場とするので、保護者の皆さまにもぜひご利用いただくと共に、こうした本学の取り組みに対し、引き続きご理解とご支援を賜りたい。」との挨拶があった。

次に、濱口会長から「本学においては、マダレナ・ソフィア・バラによる建学の精神に沿って、国際社会の一員としての自覚を持った賢明な女性を育成するため、さらに力を注いでもらうよう願っている。協力会としても、会員であるご父母の皆さまの力をお借りして、物心両面で本学を支援していきたい」との挨拶があった。



引き続き、議案の審議に入り、第1号議案「平成28年度事業報告及び決算について」では、大学事業への各種補助が合計4200万円行われたこと、および決算については、前年比の新入生数並びに新卒業生の賛助会員加入者の増加により、会費納入額が予算対比で上振れ、収入総計で約200万円の増収だったとの説明があった。

第2号議案「平成29年度事業計画及び予算案について」は、会費納入額について、新入生数は同水準だが、会費納入方法として新たにクレジットカード決済やコンビニ払いを導入したことによる納入率改善を見込み、繰越金の一部も併せて、大学への補助額を前年比200万円増の4400万円としたとの説明があった。後、第1号議案とともに一同に諮られ、承認された。

第3号議案「協力会役員・監事選任について」は、正会員選出候補者4名(新任)、賛助会員選出候補者5名(再任)及び監事候補者2名(再任)について、関係する会則と共に説明があった後、一同に諮られ、承認された。この後、正会員選出役員4名の紹介を経て12時に閉会した。(総務課)

平成28年度決算 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

収 入				支 出			
項 目	予 算 A	決 算 B	差 額 B - A	項 目	予 算 A	決 算 B	差 額 B - A
前期繰越金	5,043,836	5,043,836	0	大学事業への補助	42,000,000	42,000,000	0
正会員会費	39,480,000	38,410,000	△1,070,000	学生配付品	600,000	579,420	△20,580
賛助会員会費	5,610,000	7,770,000	2,160,000	事務費	2,200,000	2,041,636	△158,364
預金利息	5,000	247	△4,753	次期繰越金	5,338,836	6,603,027	1,264,191
預り金その他	0	0	0	総 計	50,138,836	51,224,083	1,085,247
総 計	50,138,836	51,224,083	1,085,247	前 受 金	500,000	2,400,000	1,900,000
				期 末 預 金 残 高	5,838,836	9,003,027	3,164,191

平成28年度大学事業への補助

予算どおり、前年度と同額の42,000,000円を大学事業への補助としました。補助の内訳については、次のとおりです。

項 目	金 額 (円)
図書購入費 (スクリプナー思想史大事典 (全10巻)、小林多喜二:草稿ノート・直筆原稿DVD版 他)	14,000,000
課外活動費 (クラブ活動費等)	7,500,000
学生食堂経費 (食材費、光熱水費等)	7,000,000
奨学金 (外国人留学生を含む在学生への給付等)	12,000,000
保健センター・学生相談室経費 (健康診断等)	1,500,000
合 計	42,000,000

平成29年度予算案 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)

収 入				支 出			
項 目	28年度決算 A	29年度予算 B	差 額 B - A	項 目	28年度決算 A	29年度予算 B	差 額 B - A
前期繰越金	5,043,836	6,603,027	1,559,191	大学事業への補助	42,000,000	44,000,000	2,000,000
正会員会費	38,410,000	38,800,000	390,000	学生配布品	579,420	580,000	580
賛助会員会費	7,770,000	7,500,000	△270,000	事務費(注)	2,041,636	2,100,000	58,364
預金利息	247	500	253	次期繰越金	6,603,027	6,223,527	△379,500
寄 付 金	0	0	0	総 計	51,224,083	52,903,527	1,679,444
総 計	51,224,083	52,903,527	1,679,444	前 受 金	2,400,000	500,000	△1,900,000
				期 末 預 金 残 高	9,003,027	6,723,527	△2,279,500

(注)「聖心キャンパス」の発送費を含む。

財務状況報告

平成28年度決算状況

平成28年度決算は、収入面では新入学生の人数増加に伴い学納金収入が僅に増加しましたが、寄付金・補助金収入ともに減少しております。また、支出面では引き続き経費の節減には注力しているものの、一方で定年退職者の退職金を含む人件費支出が増加し、キャンパス整備事業の本格稼働に伴う施設設備及び関連経費の支出も大きくなってきています。

収支のバランス状況を表す計算書類は昨年度より事業活動収支計算書に一新されております。学納金改定や新規の募金事業等各種増収策を順次進めています。現時点ではキャンパス整備事業の経費負担が先行していることもあって、支出超過の状態になっております。また、基本金もそれに伴って増加しており、繰越収支差額はマイナス32億円に拡大しています。引き続き支出超過の状態を早期に解消すべく、種々の対策に注力していく所存です。

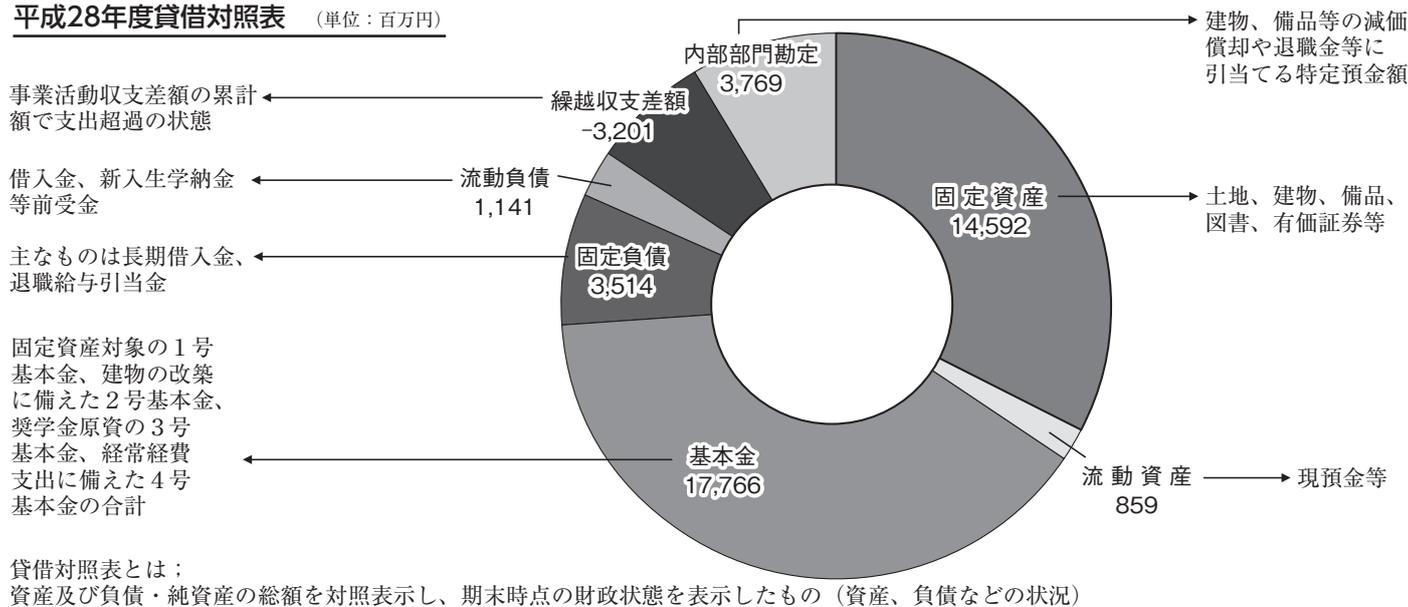
平成29年度予算について

平成29年度は、キャンパス整備事業の稼働がさらに本格化していくため資金需要は一層旺盛になると見込まれますが、引き続き節約を基本としてスリム化を図り、一刻も早い収支バランスの適正化を図るべく努力してまいります。

なお、決算・予算について詳しくは本学の公式ホームページに掲載しておりますので、本誌では平成28年度決算の概要を掲載しています。（ここに掲載した内容は、本学全体の財務状況を分かり易く示したものであり、本学を含めた法人全体の財務の整理の仕方とは若干異なります。）

経理部長 年真基博

平成28年度貸借対照表 (単位:百万円)



貸借対照表とは：資産及び負債・純資産の総額を対照表示し、期末時点の財政状態を表示したもの（資産、負債などの状況）

平成28年度事業活動収支計算書

科目	決算額	
学生生徒等納付金	2,454	昨年度より施設設備に係るものは「特別収入」に計上(73百万円)
手数料	54	
寄付金	62	寄付金と同様、施設設備に係るものは「特別収入」に計上(28百万円)
経常費補助金	203	
付随事業収入	200	主に受取利息・配当金等の運用収入及び借入利息
雑収入等	142	
教育活動収入計	3,115	大部分がキャンパス整備に伴う第1号基本金組入
人件費	2,098	
教育研究経費	989	第4号基本金超過積み立て分取崩し
管理経費	259	
教育活動支出計	3,348	
教育活動収支差額	-233	
教育活動外収支差額	81	
経常収支差額	-152	
特別収支差額	8	
基本金組入前収支差額	-144	
基本金組入額計	-1,071	
当年度収支差額	-1,215	
前年度繰越収支差額	-2,021	
基本金取崩額	35	
翌年度繰越収支差額	-3,201	

事業活動収支計算書とは：当該会計年度内の収支の均衡状態を明らかにするもの（収入と支出のバランス状況）（単位：百万円/未満は切り捨て）

平成28年度資金収支計算書

科目	決算額	
学生生徒等納付金収入	2,454	新入学生数増加に伴い前年比28百万円増収
手数料収入	54	
寄付金収入	126	不動産取得時のつなぎ資金借入を長期借入に切替え
補助金収入	231	
付随事業収入	200	キャンパス整備のための減価償却引当預金取崩し等
受取利息・配当金	92	
借入金収入	3,000	つなぎ資金（長期に切替え）及び長期借入金（当年度分）返済
雑収入	142	
前受金収入	747	主にキャンパス整備のための費用
その他の収入	972	
資金収入調整勘定	-928	
前年度繰越支払資金	880	
収入の部 合計	7,970	
人件費支出	2,124	
教育研究経費支出	645	
管理経費支出	225	
借入金等返済支出	3,300	
施設関係支出	573	
設備関係支出	239	
資産運用支出	117	
その他の支出	243	
資金支出調整勘定	-182	
次年度繰越支払資金	686	
支出の部 合計	7,970	

資金収支計算書とは：当該会計年度内の諸活動に関するあらゆる収入、支出の内容を表したもの（資金の出入り状況）（単位：百万円/未満は切り捨て）

【グローバル教育環境整備募金】

「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性を育成する」という使命達成に向け、4号館（新棟）の整備、新学寮の建設など大規模なキャンパス整備を計画・実施してまいります。このため、本年1月より3ヵ年にわたり、皆様方からのあたたかいご支援をお願いしております。

■ご寄付の状況（2017年3月末日現在）

件数：320件

総額：20,577,799円

寄付者ご芳名（2017年1月～2017年3月末）

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。

【掲載要領】



- ご芳名は、上記期間に寄付申込書のご提出とご入金の確認が取れた方々について、お送りした領収証の宛名に記載の名義で掲載しております。なお、敬称は省略させていただきました。
- 金額掲載に同意された方については、金額別に五十音順で掲載しています。金額掲載に同意されていない方については、「ご芳名のみ」として五十音順に掲載しています。なお、芳名録への掲載に同意されなかった方につきましては、匿名として件数のみ掲載しております。
- 団体・法人については、代表者等のお名前は省略させていただきました。

▼1,000,000円

奥 正之
鈴木 憲史
延原倉庫株式会社

▼500,000円

加藤 史子
今田 恵子
寺中 平治

▼300,000円

白井 共子
高橋 由枝
森 淳子

▼120,828円

宮代会ミュージカル
研究会OG会

▼100,000円

朝香 みどり
出塚 美紀
氏家 淑子
内田 慎一
大澤 恵美子
蔭山 美智子
金納 慶太
高島 幸一
高橋 敏彦
高橋 良則
得居 かつ子
長尾 和枝
永野 和男
三並 陽子

吉田 公美子

▼50,000円

荒舘 宣代
石川 英子
市川 洋治
稲永 澄子
勝又 英子
加納 博義
木村 節子
木村 良子
窪田 良
黒田 知子
小林 知子
齋藤 敦子
穴戸 千世
瀬戸 延泰
橋本 陽子
原田 幸子
藤本 和子
丸田 礼
箕浦 啓子
村野 裕子

▼30,000円

飯田 文子
市川 敏子
伊藤 衣里子
今井 洋子
岩田 洋一
内野 恵子
大橋 正明
岡谷 潮
押元 裕子

越智 裕子

上林 葵
気賀 祥子
岸本 結子
北野 真理子
栗林 總子
黒田 綾乃
小島 和子
小林 麻里
塩田 百合子
式 節子
柴沼 佳子
下野 俊子
高橋 美枝
高柳 賢一郎
田島 嘉代子
田中 和枝
谷口 隆子
田村 澄香
對川 一実
中内 靖
長尾 和雄
長島 春枝
中野 淳子
中村 多喜子
新谷 靖子
西村 信彦
橋本 佳織
橋本 芳子
平野 直子
Farwell Yumi
藤田 苑子
ベルジェズ 直子
細木 郁代

松本 京子

壬生 幸子
宮澤 映美
森川 佐和子
野牛 晶子
山口 力
山田 あけみ
山田 功
山田 八重子

▼20,000円

中西 由起子
松岡 道子

▼10,000円

植村 由美子
内山 恵美子
河島 敬子
窪田 香史
中川 みほ
成毛 須美
松本 通子

▼5,000円

小林 由加

▼ご芳名のみ

秋山 勝
芦田 諾朗
阿部 美都
荒木 寛子
飯塚 和恵
石塚 由美子
石原 多希子

白井 麻子

榎並 瑛子
大塚 美保
岡田 公枝
岡本 伊都子
小川 町子
木村 誠宏
久我 三和子
草島 万里子
小出 佐和子
児玉 宏子
小林 弘
五味 康昌
齋藤 直子
阪本 憲一
清水 由紀子
庄司 昌子
常谷 章二
城間 葉子
杉山 督子
曾野 綾子
大 惇子
高倉 和子
高島 曜子
高橋 佳子
竹山 泉
立花 和子
谷 陽子
玉村 富久
出澤 真理子
中井 洋子
中嶋 ゆか
中村 智子
西畑 睦子

西原 直枝

西村 創太
仁分 温享
挾間 房子
橋本 久美子
濱田 清美
林 薫子
樋口 公子
平山 友治
深沢 滯子
藤原 寿美子
細川 淳
増田 尚昭
榎谷 紀子
松野 マサ
宮坂 佳子
最上 堯子
茂澤 健一
森田 愛子
森脇 滋子
安井 素子
安田 嘉秀
矢田 公美
山下 万友美
吉武 尚子
吉原 智子
和田 幸弘
渡部 雅子
7回生有志

■匿名 143件

ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

【募金に関するお問い合わせ先】 聖心女子大学経理部／電話：03-3407-5811（代表）

E-mail: keiribu@u-sacred-heart.ac.jp

●寄付金ホームページ URL: <https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html>

（「聖心女子大学 寄付金」で検索してください） ※ Web画面からの申込み・クレジット決済も可能です。

UNHCR 難民高等教育プログラム

(Refugee Higher Education Program - RHEP) への参加



2018
UNHCR難民高等教育プログラム
UNHCR Refugee Higher Education Program

出願受付期間: 2017年8月4日(金)
Application Deadline: 4 August 2017

関西学院大学 青山学院大学 明治大学 津田塾大学
創価大学 上智大学 花明女子学院大学 聖心女子大学

本学は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日事務所、特定非営利活動法人国連 UNHCR 協会とともに「UNHCR難民高等教育プログラム」に関する3者協定を締結しました。このプログラムは、難民又は難民に類する地位を日本政府より認められている者であり、日本政府により在留資格を付与されている者が、経済的な支援を受けながら、日本の4年制大学で就学できるようサポートするものです。

本学は、2018年4月から毎年1名を受け入れることとなりました。

7月14日には、ダーク・ヘベカー UNHCR駐日代表、滝澤三郎国連 UNHCR 協会理事長が本学を訪れ、協定の締結を祝いました。

2017年は、聖心女子大学グローバル共生研究所を開設し、聖心グローバルプラザが始動する記念すべき年となりました。新たに「UNHCR難民高等教育プログラム」による学生を迎えることが、難民支援活動の一助になるとともに、本学が推進するグローバル共生に関する教育・研究に繋がることを願っています。



本学において、協定の締結をお祝いしました。(7月14日)

学長 岡崎 淑子

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業（科研費）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。（独立行政法人日本学術振興会ホームページより）

以下は、平成29年度の本学所属研究者の採択課題（代表分、新規+継続）です。

（掲載順は、研究種目・課題番号順）

Brenda Bushell 「ネパールにおける持続的発展可能な環境配慮型ビジネスモデルに関する研究」基盤研究 (B)	岩上 真珠 「30代-60代のコーホート間比較にみる仕事、家族、ジェンダー」基盤研究 (B)	杉原 真晃 「サービス・ラーニングを通した持続的な大学教養教育改革と地域発展のモデル構築」基盤研究 (C)	山口 昭彦 「近世=近代イランにおける「帝国」統治の変容とクルド系諸侯」基盤研究 (C)	小城 英子 「不思議現象信奉と心理学教育」基盤研究 (C)
向井 隆代 「児童養護施設入所児童の適応を支える要因とメカニズム—青年期までの追跡調査を通して」基盤研究 (C)	今川 恭子 「乳児の動的音楽性の可視化に関する研究：保育及び子育て現場への適用可能性の探求」基盤研究 (C)	大槻 奈巳 「派遣労働のキャリア形成：専門性・職域・年齢制限を軸とした社会学的アプローチ」基盤研究 (C)	畑 浩一郎 「19世紀フランス文学におけるイマゴロジー研究」基盤研究 (C)	石井 洋子 「東アフリカの「頭脳流出」をめぐる人類学的研究：在来ケニア・ギクユ人に焦点を当てて」基盤研究 (C)
小柳 智一 「副助詞を中心とした日本語文法史の多角的研究」基盤研究 (C)	杉本 淳子 「日本人英語教員の発音向上を目的とした発音指導プログラムの構築と効果測定」基盤研究 (C)	岸本 健 「幼児の指さし産出の促進による言葉の遅れの予防効果」基盤研究 (C)	小川 早百合 「グローバル人材のための文学教育の開発—漢字を「むずかしい」から「楽しい」へ」挑戦的萌芽研究	永田 佳之 「気候変動と教育に関する学際的研究：適応と緩和のためのESD教材開発と教員研修」挑戦的萌芽研究
岸本 健 「眼球運動の解析から明らかにする1歳齢児の指さしと言語発達との関連性」若手研究 (B)	Corbeil Steve 「The Social and Cultural Impact of Literary Translators in Japan from 1950」若手研究 (B)	青島 麻子 「婚姻研究の観点から見た平安朝物語の研究」研究活動スタート支援	飯野 りさ 「シリア正教徒共同体における音楽とアイデンティティ」特別研究員奨励費	

奨学金給付
本年度の「宮代会大学院奨学金」は人間科学専攻博士前期課程一年生一名に2年間給付を理事会の承認を受け決定いたしました。こうした宮代会からの支援が母校への貢献になり喜んでいただけているのは大変嬉しいことです。



災害復興支援チャリティーデー
6月10日土曜日、大学主催のチャリティーデーに参加しました。会員有志手作りのキャンディーやポーチなどを販売しました。

災害復興支援チャリティーデー

留学生昼食会
5月26日金曜日に、大学で学ぶ交換、短期留学生20名と学長及び大学職員、サポーター学生の方々をお招きし、宮代会員の手料理を楽しんでいただきました。大学グリーンクラブの皆様も昨年同様、美しい歌声で校歌を披露してくださいました。



宮代会館

私達宮代会は、同窓会として卒業生の皆様と母校をつなぐ活動をしております。

宮代会だより

南門を上がった左手にある会館では福祉活動をはじめ宮代祭の開催、会報「宮代」の発行などの作業に、25回生から58回生までの18名の理事と会長、副会長2名で携わっております。会館の各部屋はお稽古、同窓会の集まりなどにお使いいただいております。また宮代ショップでは文房具や日用品を揃えて販売しております。

聖心女子大学

災害復興支援チャリティデー 2017 開催報告

6月10日

大学では東日本大震災の翌年から学生たちと教職員を毎月、東北に派遣し、復興活動のお手伝いをしてきました。そんな現地の様子を首都圏の人々に伝えるとともに、支援活動の資金を集めるためのチャリティバザーが今年も実施されました。6回目となる今回も、学生、卒業生、教職員、姉妹校、聖心会および関係団体がそれぞれ工夫を凝らしたショップを出店し、手作りの小物、焼き菓子、古着、生活用品など多種多様な品物が会場となった学食に並べられました。カフェや生け花の体験コーナーも設置されました。気温が30度を超える暑い日でしたが、大勢のお客さんにおいでいただき、商品は飛ぶように売れていきました。最後に学生たちによる祈りの会が行われ、一同、黙祷し、会を無事終えることができました。

東日本大震災から6年。被災地も復興作業が進み、社会的な環境が大きく変わろうとしています。土を盛って作った高台に、新たな商店街ができつつあります。しかし、そこに新店を出店して本当に採算がとれるのか店主たちは悩んでいます。このように、復興という名の変化を、どう自分の生活に役立てていくか、今、それぞれの人々がつきつけられている大きな課題です。聖心女子大学では、チャリティの収益を基に、これからも現地の人々に寄りそうとともに、被災地から得られる教訓を学生とともに学んで行きたいと思っています。

聖心女子大学災害復興支援チャリティデー2017
実行委員長 菅原 健介



国際交流学科

「異文化間コミュニケーションのワークショップ」開催報告

6月20日

異文化間コミュニケーションの発展を目的として、カナダのケベック州政府の支援により Sherbrooke 大学の Jacques Proulx 名誉教授が来日し、フランス語を履修している1年次生約30名と国際交流学科2年次生約70名を対象に、「異文化間コミュニケーションのワークショップ」が開催されました。学生たちは、グループワークを通じ、文化の違いによる考え方の差異が異文化間コミュニケーションの障害となっていることを学びました。特に2年次生は、留学生とも意見交換することができ、より身近に文化の違いを感じることができました。参加した学生からは、「異文化や外国人に対し、先入観や固定観念があったことを気付かされた」「グローバル化が進む現代において、互いの文化を知り、尊重することが重要だと感じた」等の感想が聞かれ、大きな気付きがあったように思います。このワークショップが、本学の異文化間コミュニケーション発展のきっかけになれば幸いです。

国際交流学科准教授 スティーブ・コルベイユ

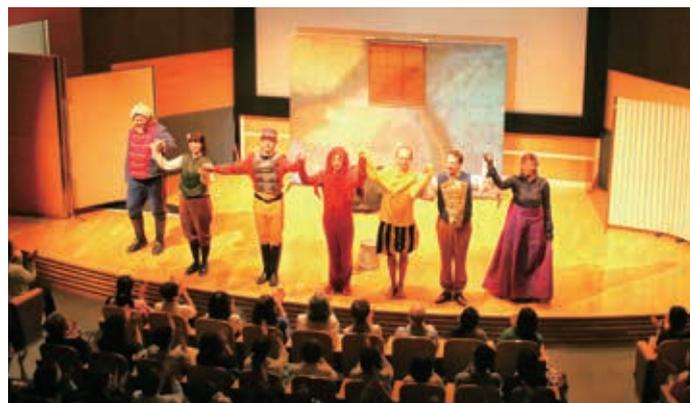


英語英文学科・大学院英語英文学専攻主催

国際化推進のための公開講座

『十二夜』公演

5月21日



2017年5月21日(日)宮代ホールにて、劇団インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン (ITCL) によるシェイクスピア作『十二夜』の公演が行われました。今年も、在学生、他大学生、卒業生を含む観客の皆様で宮代ホールが埋め尽くされ、皆様にシェイクスピア劇をお楽しみいただくことができました。日本語字幕は例年と同じく、本学科の安達まみ教授と大学院生・大学院修了生、卒業生の共同制作によるもので、今回の ITCL 全国公演でも使用されました。

今年ではマリアンホールの改修工事のため、初めて宮代ホールでの公演となり例年より収容人数に限りがありました。舞台と観客の距離が近くなった分、役者さんとのキャッチボールが生まれ、喜劇だったこともあり笑いが飛び交う場面が多くありました。宮代ホールロビーでは、英語英文学科生・英語英文学専攻大学院生が作成した、学科のゼミを紹介するポスターや、シェイクスピア関連作品を展示いたしました。今回も、貴重な交流の機会を得ることができました。公演の成功にご尽力いただきました学内各方面に感謝申し上げます。

英語英文学科教授 マーシャ・クラッカー



マグダレナ・ソフィア・バラの祝日ミサ

5月23日

5月25日は創立者の聖マグダレナ・ソフィア・バラの祝日記念日にあたります。

それに先立ち5月23日には、シスター方が、学生たちとカトリックルームで昼食をともにしながら、聖マグダレナ・ソフィア・バラの生い立ちやお考え、女子教育について描かれていたビジョンなどを語っていただきました。集まった10余名の学生は、和やかな雰囲気の中で、聖マグダレナ・ソフィア・バラの深い信仰や、神様と人々にささげられたその生涯について、知ることができました。

そして当日5月25日に、高木健次神父様の司式で学生ミサが行われ、40名ほどが参加しました。神父様は、卒業生の緒方貞子氏が国連難民高等弁務官として働いていた時の話などを交え、創立者の思いが今も脈々と受け継がれているとお話いただきました。学生それぞれが創立者に想いを馳せ、この記念日を味わうことができました。

マグダレナ・ソフィアセンター 鈴木 智子



予告

第53回聖心祭予告

10月21日・22日

聖心祭は本年度で53回目を迎えます。私たち聖心祭実行委員会は10月21日(土)、22日(日)に開催される聖心祭に向けて日々活動しております。本年度のテーマは『結』にいたしました。聖心生一人一人が、聖心祭という大きな場でそれぞれの個性や魅力を発揮することが出来るよう、目指しています。また、聖心祭が個々の発表をする場のみならず、共感し寄り添いあえるような場となるよう努めてまいります。

聖心祭では創立者マグダレナ・ソフィア・バラの精神に基づき、毎年収益金の一部を寄付してまいりました。本年度も昨年度までと同様に東日本大震災と熊本地震の長期的支援及び、恵まれない環境に暮らす子供たちの支援に充てることを検討しています。

そして、多くの方々に楽しんでいただけるよう、様々な企画を進めています。本年度は4号館が新しくオープンし、4号館でも展示などを催す予定ですので、ぜひお越しください。聖心祭実行委員会一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

聖心祭実行委員長 入江 花南



SHOC project たび今活動中!

SHOC project は、コットンを育てることで、福島の復興を応援することを目標に活動をしています。東日本大震災による津波の塩害や、原発事故による風評被害によって福島では休耕する農地が増えました。そこで、こうした状況に負けない農作物として、コットンが注目され、それを栽培、商品化し利益を得ることで福島の復興を福島自ら促進していこうという趣旨のもと2012年に「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」が立ち上がりました。私たちはその支部のよう

な立ち位置で活動させていただいております。

5月15日、1号館中庭にて、私たち自らが開墾と土づくりを行った新たな畑で、コットンの種まきを行いました。天候にも恵まれ、メンバーも終始笑顔で活動を行うことができました。学長さまをはじめとする、大学の教職員の方々にも見守られながらの種まきでした。1週間後の5月29日には芽も出て、コットンはすくすくと成長しています。

6月10日のチャリティデーに参加し、今後、夏休みには福島へのスタディツアーも計画中です。9月以降には茶色と白の綿花が収穫できる見込みです。

SHOC project 代表 瀬戸 瑞紀



平成 29 年度 聖心女子大学 懇談会 開催報告

2017.6.24 (土)



クニハウス（旧久邇宮邸本館車寄せ）では、「聖心女子大学のあゆみ」の大学資料展示も行われました。



6月24日土曜日、本年度の聖心女子大学懇談会が開催されました。1年生の保護者161組194名、2年生96組105名、3年生62組70名、4年生31組35名。合計404名でした。ご参加くださった皆様に心より感謝いたします。

本年度は、従来の会場のマリアンホールが耐震補修工事中で使用できないため、新キャンパス4号館のプリット記念ホールを全体会の会場と致しました。4号館も9月のフルオープンに向けてまだ改修中でしたが、田窪恭治氏の制作によるグローバル共生の象徴といえる大壁画「黄金の林檎 Le Pommier d'Or」に迎えられる新たな空間に、概ね好意的な反応でした。

全体会では、岡崎学長が4号館とその中心となるグローバル共生研究所を紹介、その後、研究所長である人間関係学科大橋教授門下の大学院学生からタイスタディツアー報告があり、最後に大橋所長により、グローバル共

生研究所の活動展望の説明が行われました。

協力会総会で午前の部を終えた後、学科紹介や種々の個別相談会場が3号館と学生食堂であったため、皆様には新キャンパスから従来のキャンパスへの移動をお願いしました。新たに開削した両キャンパスを繋ぐ坂道を登ると、学内には新学寮建設の巨大クレーンが立ち、マリアンホールは工事用壁に囲まれ、いつもと違う風景に出会います。力強い一歩を新たに踏み出そうとする大学の姿を皆様にご覧いただけた、と思っております。

昼食の Meal for Refugees による難民支援募金は23,300円に及びました。ありがとうございます。来年度は、改修なったマリアンホールと、新学寮がお迎えます。乞御期待。

学生担当副学長 川津 誠